

【高等学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	佐賀県立佐賀工業高等学校
-----	--------------

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育目標を達成すべく、年度の重点目標を定め、各評価項目について取り組み、「概ね達成できた」と考える。 未来に貢献する工業技術者になるためには、自ら学び、考え、行動できる生徒を育成することが大切である。実習課題、課題研究では互いに学び合える授業展開が図られているが、他の科目においても推進したい。 進路指導では高い就職率を誇っており、指導体制も充実している。今後は、大学進学等への進学体制を構築していくことが必要である。
------------------	---

2 学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 地域産業の発展のみならず、日本の産業界を牽引し、倫理観をもって未来に貢献する優秀な工業技術者を育成する。 主体的な学び、協働学習、探究活動を重視した教育を実践し、時代に即した柔軟な考え方を創造できる力を育む。 専門分野の基礎的な知識・技術を習得するとともに、先端的技術と融合させた学習を取り入れ、文武バランスの取れた環境を整えることで、自ら学び、考え、行動できる生徒を育成する。
----------	---

3 本年度の重点目標	<p>〇「ものづくり」から「者(ひと)づくり」そして「未来(あす)づくり」</p> <p>ア 新たな課題への着実な対応 イ 深い生徒理解に基づく指導 ウ 規律ある高校生活の定着</p> <p>エ ものづくり教育の推進 オ 部活動の充実</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	主な担当者	
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果			評価
●学力の向上	〇「わかる授業」の実践と学習意欲の向上に向けた学習指導の改善	〇授業アンケートにおいて丁寧で分かりやすいと感じている生徒の割合が95%以上になるようにする。	・各教科で年1回以上研究授業・公開授業を行い、職員同士が相互に指導助言を行うことで指導力向上を図る。	B	・1教科が校内研究授業を終えている。残りの教科も今年度中に実施の予定である。研究授業の後に授業研究会を実施し、お互いの授業改善に繋げたい。今後より主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善を行っていきけるような環境づくりを続けたい。	B	・各教科で研究授業を実施し、授業改善に努めた。また、生徒を対象とした授業アンケートの結果、授業が分かりやすいと答えた生徒の割合は92.8%であった。今後も主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、各教科で教材研究に努めていけるような環境づくりを続けている。	B	・「授業が丁寧で分かりやすかった」が92.8%と高いのは、良い結果だと思います。 ・生徒の不満や意見を取り組みがあるよと思いました。 ・今後も継続して改善を図り、学校全体の学力向上に取り組んでいきたい。 ・難しいと思いますが、時には厳しく、時には面白い指導をしてほしい。	教務主任
	〇資格取得の推進 ・各科における重点資格と検定試験の合格率の増加 ・ジュニアマイスター顕彰の取得者の増加	〇無資格者を0にする。 〇ジュニアマイスター顕彰取得者数を100名以上を目指す。	・科の職員や担任と連携して資格取得者を増やす。 ・難易度が高い資格・検定を積極的に挑戦させる。	・本校職員による、人権や安心・安全に関する道徳講演会の実施 ・「情報」、ホームルーム活動において情報モラル教育、人権教育を実施	B	・ジュニアマイスター上期は、ゴールド6名、シルバー22名、ブロンズ39名の計67名が取得した。生徒の中には、他科の資格を希望して、積極的に取り組んでいる。	B	・今年度のジュニアマイスター顕彰は、ゴールド18名、シルバー33名、ブロンズ57名の計108名が認定された。 ・他科の専門外の資格にも意欲的に取り組み、合格し資格を取得した生徒がいた。今後、科に特化した資格についても広く告知して意欲を持っている生徒に対応していきたい。	A	・電気工事士の資格取得のために先生が熱心に指導されていると聞いています。 ・ジュニアマイスター顕彰取得者数100名以上達成されているので素晴らしいと思います。 ・専門的知識の習得の上での資格取得は必要であるが、何でも取得すればいいという傾向にならないように配慮してもらいたい。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	〇道徳教育講演会後のアンケートで、生徒の理解度「おおむね理解できた」、「理解できた」あわせて90%以上を目指す。	・本校職員による、人権や安心・安全に関する道徳講演会の実施 ・「情報」、ホームルーム活動において情報モラル教育、人権教育を実施	B	・日常に潜むいじめに発展する言動を、本校の事例を挙げながら職員が再現することで、生徒の深い理解に繋げることができた。	B	・今年度、いじめの認知・認知件数は減少した。これは生徒に対する人権教育が浸透してきている成果であると感じている。一方で、いじめの未然防止を成果推進するために、相談箱等の設置も検討していく必要があると思う。	B	・第三者を招いての講演、講演の実施が必要だと思います。 ・いじめの認知・認知の減少は素晴らしい。 ・様々な研修を行っており、特にSNSなどの情報モラルについては、時代に合った必要な教育であると思うので、引き続きお願いしたい。	生徒指導主任
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	〇学期ごとにいじめアンケートを実施する。 〇生徒が安心して学校生活を送ることができるように相談環境を整える。	・教職員やスクールカウンセラーとの連携を密にし、早期発見・早期対応に努める。 ・生徒が話しやすい環境づくりに努め、充分に話を聞き、深い生徒理解につなげる。	B	・いじめアンケートは1学期に1回実施し、2,3学期も1回ずつ実施予定である。 ・いじめが疑われる問題の対応については担任、管理職、他の職員と連携し、丁寧に問題解決につなげた。 ・気になる生徒には積極的に声をかけるようし、スクールカウンセラーにもつなげた。	A	・いじめアンケートは学期に1回ずつ実施した。 ・いじめが疑われる問題の対応については担任、管理職、他の職員と連携し、丁寧に問題解決につなげた。 ・気になる生徒には積極的に声をかけるようし、スクールカウンセラーにもつなげた。	A	・教員と生徒のコミュニケーションが多くあれば早期の対応ができると思います。 ・目標とおり取り組まれており、さらにいじめの認知・認知件数が減少しているの素晴らしいと思います。 ・気になる生徒への積極的声掛けは、素晴らしいと思います。 ・いじめ問題には、組織的に迅速適切な対応が行われていると思います。	教育相談担当
	◎ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動	◎「佐賀を誇りに思う教育」のアンケートで「佐賀県に誇りや愛着を感じる・どちらかといえば感じる」と回答する生徒が75%以上になるようにする。	・「佐賀語りを活用し、佐賀県の良さを再発見させる。 ・また、ふるさと佐賀の課題を設け、クラス討議を行う。 ・外部指導者を招聘し、郷土愛を育む講演を行う。	・8月の全校全校日の際 SAGA2024・2024北部九州総体の講演会を行い、生徒一人一人として佐賀を盛り上げようという気運を高めた。 ・12月に計画している佐賀を誇りに思う講演会では、SAGA2024に向けた内容で講師依頼済み。 ・佐賀語りを活用したクラス討議を3学期に実施予定である。また、DVD視聴も計画している。	A	・8月の全校全校日の際 SAGA2024・2024北部九州総体の講演会を行い、生徒一人一人として佐賀を盛り上げようという気運を高めた。 ・12月に計画している佐賀を誇りに思う講演会では、SAGA2024に向けた内容で講師依頼済み。 ・佐賀語りを活用したクラス討議を3学期に実施予定である。また、DVD視聴も計画している。	A	・佐賀市役所から講師を招き、佐賀の産業の歴史についての講演会を行った。 ・令和5年度ふるさとへの誇りや愛着に関するアンケート(第3学年対象)では「佐賀県に誇りや愛着を感じますか?」の問いに対して、あるまたはどちらかという回答した割合が88%だった。	A	・県市等のボランティア参加によりふるさとへの思いが増すと思います。 ・目標を超える良い結果で素晴らしいと思います。 ・今後も創意工夫を凝らした取り組みで郷土愛を育てていきたい。
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成	〇睡眠、食事、運動を十分に取ることを意識した日々を送る生徒を90%以上にする。	・「保健だより」において、質の高い十分な睡眠、バランスの取れた食事、適度な運動の必要性について具体的な情報を掲載することで、生徒の意識付けを行う。 ・アンケートを実施することで、生徒が自分の生活を振り返る機会を持ち、改善につなげる。	B	・毎月発行の保健だよりを通して、睡眠、食事、運動の大切さと、生徒ができることを具体的に提示した。 ・「食事・健康に関する調査で、運動、食事、睡眠の大切さを99%の生徒が理解している結果であった。また、90%以上が自分で簡単な調理もできる。意識づけは十分行えた。しかし、好き嫌いがない食事できている生徒は半数であるため、積極的な食事への関わり方を育てる必要がある。	A	・毎月発行の保健だよりを通して、睡眠、食事、運動の大切さと、生徒ができることを具体的に提示した。 ・「食事・健康に関する調査で、運動、食事、睡眠の大切さを99%の生徒が理解している結果であった。また、90%以上が自分で簡単な調理もできる。意識づけは十分行えた。しかし、好き嫌いがない食事できている生徒は半数であるため、積極的な食事への関わり方を育てる必要がある。	A	・高校生には一番大事なことだと思います。 ・目標を超える良い結果で素晴らしいと思います。食べ物好き嫌い、ある程度許容されても良いのではないかと感じました。 ・ほほすべての生徒が運動、食事及び睡眠の大切さを理解していると思います。 ・生徒だけでなく、家庭に向けた情報発信ができれば更に効果が高まるのではと感じました。	保健主事(食育推進担当)
	●安全に関する資質・能力育成 〇「モラル」の形成 ・交通に関するモラル ・SNS利用に関するモラル	〇生徒の交通事故0(ゼロ)を目指す。 〇ネットハラスメント指導事例0(ゼロ)を目指す。	・自転車マナーアップモデル校として、県警本部交通企画課と連携を図りながら実施される行事とおとして、交通安全に対する意識を高める。 ・本校職員が生徒に身近な問題を取り上げた講話を行うことで、深い理解につなげる。	・自転車マナー(元陸上日本代表)による、ネットエチケット講話で日本のトップアスリートに例に挙げてすることで生徒の興味関心を引き、高度情報化社会の危険性を認識させることができた。	A	・本校職員(元陸上日本代表)による、ネットエチケット講話で日本のトップアスリートに例に挙げてすることで生徒の興味関心を引き、高度情報化社会の危険性を認識させることができた。	B	・自転車マナーに関しては、年間とおして並連が多く、事故件数も前年と比べ増加した。SNS利用に関する問題については、ネットハラスメントからの指導は大幅に減少したが、いじめのツールとして度々問題にあがっている。どちらも今後一層、マナー・モラルの育成をすすめて、「いのち」を守る努力をしていきたい。	B	・イノベーションの自転車走行が怖いです。SNSは事故例等を挙げて講習をおこなう事などが必要だと思います。 ・ネットハラスメントの指導が大幅に減少は良い結果だと思えます。自転車マナーの指導は、マナー・モラルの問題というよりルール違反の可能性があるように感じました。 ・自転車乗車時のヘルメット着用について検討されることを期待したい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●教職員の時間外在校時間の年間平均を昨年より5%削減する。	・業務を見直し、業務の効率化・平準化を図ることにより個人の負担を軽減する。 ・定時退勤推進日、部活動休業日、学校閉庁日を設定し、時間外勤務時間の削減とともに休暇を取得しやすいようにする。	B	・教職員の時間外在校等時間は9月未現在で平均約30時間。昨年度比3%減で、目標は未達成だが減少している。 ・部活動では、休業日の積極的な確保を助めている。	B	・時間外在校等時間の平均(R5.4~R6.1)は、1月末現在で平均30時間を切り昨年度を下回ってはいないものの、ほぼ同等の平均時間数であり、目標を達成することはできなかった。 ・部活動では、休業日の積極的な確保を助めている。 ・次年度については、引き続き行事の精選や効率化に努め、一層の働き方改革の推進を図りたい。	B	・時間外在校時間は前向きに減少している。 ・先生に余裕がなければ指導も行き届かないと思います。 ・教職員が疲弊すれば、活気ある学校運営が困難になると思います。引き続き時間外勤務の削減に努めていただきたい。	教頭
	〇教育行政職員の学校運営への積極的参画と教員との連携促進	〇教育行政職員の専門性を活かした、教育的視点を持ちながら学校運営に積極的に参画する。	・学校教育目標を達成できるよう学習環境の改善・整備を行う。 ・教育職員が担当しているICT業務の軽減に向けた取り組みを行う。	・PCを使っての学習がしやすいよう、セキュリティ環境の改善に取り組んだ。今年度中に改善される予定。 ・ヒアリングシートの提出を教育行政職員が代行する取組を試行するなど、教育職員の負担軽減を図っている。	B	・PCを使っての学習がしやすいよう、セキュリティ環境の改善に取り組んだ。今年度中に改善される予定。 ・ヒアリングシートの提出を教育行政職員が代行する取組を試行するなど、教育職員の負担軽減を図っている。	A	・校内で情報共有を図りセキュリティ環境の改善を行うことができた。 ・ヒアリングシートの提出等教育行政職員が代行し、教育職員の負担軽減を図ることができた。	A	・この取り組みだけでなく、多角的な視点で業務改善を行い教職員の負担軽減に努めていただきたい。 ・目標を達成されて素晴らしいと思います。アンケートの数値がやや低い改めて更なる改善が可能かもしれないと思います。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果			評価
〇進路実現	〇生徒・保護者の希望や要望をふまえ、生徒の能力や適性を考慮した指導を行う。 〇国立(工業系学部)大学、工業高等専門学校編入の合格者数5名を目指す。	〇進路意識の向上と、職業・勤労観を育成し、キャリア教育の推進を図る。 〇就職試験の1次合格率を95%以上を目指す。 〇国立(工業系学部)大学、工業高等専門学校編入の合格者数5名を目指す。	・卒業後の就職・進学先でのミスマッチを防ぐ観点からも、生徒や保護者への詳細な情報提供を行い、個人面談を積極的に行う。 ・進学者対策として、補習等で基礎学力だけでなく、応用力を向上させる。 ・面接や集団討議等の指導を早い時期より実施するなど、採用試験時の対策を行う。	A	・就職採用試験1次結果は、172名の受験に対し、161名の合格、11名の不合格となった。不合格に対しては、直ぐに2次に向けて指導している。(1次合格率93.6%) ・就職に関しては、11月を目処に全員の内定が決まると思われる。 ・進学に関しては、これから推薦入試が始まる。	A	・就職希望者178名、進学希望者57名全員が、内定・合格することができた。本校職員だけでなく保護者のご理解・協力があって、3年生全員が進路を決定することができた。ありがとうございました。 ・就職希望者は、12月までに全員の合格が決定しました。 ・進学希望では、国立佐賀大学に合格者が出ることができました。昇格・放課後の特別に加え、小論文指導に熱心に取り組まれました。その他、福岡大学や福岡工業大学の有力大学への合格者も多数出ました。	A	・就職、進学ともに素晴らしいと思います。就職の1次合格率は100%近くでなくても良いように思いました。ミスマッチを防ぐという観点から、厳選採用企業を受ける生徒さんがいれば良いかと思いました。 ・目標の就職試験1次合格率95%以上、国立大学及び工業高等専門学校合格者5名が目標達成されたのか氣になりました。 ・希望する進路に合った熱心な指導をしていただきました。	進路指導主事
★ものづくり教育の推進	★実習・課題研究等のものづくり教育をとおして主体的な学び、協働学習、探究活動を充実させる。 〇ものづくりの楽しさや工業高校の魅力や中学生やその保護者発信する。	〇主体的に他者と協力して学習に取り組めたと感じる生徒80%以上を目指す。 〇自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合80%以上、教職員の割合80%以上を目指す。	・主体的な学び、協働学習、探究活動を重視した実習内容を取り入れる。 ・生徒同士で協働し主体的に計画している。他の科においても、少人数学習の中で協働的作業を実施している。 ・今年度新たにオープンスクールを実施した。第1回入学希望状況調査において、昨年度より希望者が27名増加した。	A	・電気科において、小学生に対してものづくり体験教室を生徒同士で協働し主体的に計画している。他の科においても、少人数学習の中で協働的作業を実施している。 ・今年度新たにオープンスクールを実施した。第1回入学希望状況調査において、昨年度より希望者が27名増加した。	A	・実習や課題研究関係の授業アンケートにおいて友達と話し合ったり、共同して取り組んだりする時間があったと答えた生徒が78.9%であった。どちらかといえば、はいを答えたものが95.4%であり、主体的・協働的な学習が実現できている。 ・自分の学校を中学生に勧めることができるといふアンケートでは、いづれどちらかといえば、はいの生徒が89.5%、職員が91.9%であり、目標を達成することができた。	A	・ものづくりの楽しさを伝えるために具体的な策を検討してほしい。 ・目標を達成されており、素晴らしいと思います。 ・継続した取り組みで、工業高校ならではの価値を高め、魅力ある学校づくりに努めていただきたい。	主幹教諭
〇部活動の充実	〇部活動を通し、コミュニケーション力の育成、幅広い人間関係の形成	〇部活動加入率90%以上を目指す。部活動に入り、コミュニケーション力がついたと実感できる生徒が80%以上を目指す。	・部活動に所属していない生徒に入部の呼びかけを行う。	A	・未入部の生徒に文化部の説明等を行い実際に入部する生徒がでた。加入率90%に達している。	A	・未入部の生徒に対し説明会等を実施することで、1年生のみならず、2年生の入部も見込めるなどの成果があった。	A	・事情があって部活動ができない生徒さんのケアもしていただければと思います。 ・2年生が新たに加入されたことは評価すべきと考えます。 ・部活動に加入することは賛成であるが、個人や家庭の考え方、事情があるので、加入率という目標を立てることに疑問を感じる。	特活指導主任

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育 ★...唯一無二の誇り高き学校づくり

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> 分かりやすい授業の実践や学習意欲の向上を継続して進める。授業の工夫や改善を進め自ら学び考え行動する生徒の育成を今後も続ける。 業務の効率化をさらに進め時間外勤務時間の短縮を継続して続けていくと共に職員の多忙間の解消に努める。 就職希望者は合格率を誇っている。今後県内就職希望者の増加を目指すとともに、4年生大学や高等専門学校等希望者への進学指導体制の再構築を進めたい。
----------------	--